

留学先国名 : チェコ

留学先学校名 : Masaryk University

留学期間 : 平成 28 年 9 月 4 日 ~ 平成 29 年 7 月 23 日

(留学中の生活)

寮での共同生活から学ぶことが多かったです。キッチンが共用だったので、皆で各国の料理を分け合っているうちに、かなり料理も上達しました。寮生活で友達に大変評価されたのは、話の上手さや速く正確に話す能力ではなく約束を守ること、人の話をよく聞いてそれを覚えていること、それらを行動で示すこと、相手が何も言わなくても分かってあげること、などの日本人としての良さでした。例えば、私が寮で、冷蔵庫で 1 日固めるタイプのチョコクランチをつくっていた時、コソボ出身の友達がやってきて、食べたそうにしていたので、明日部屋まで持っていきよと約束し、本当に持って行って‘As I promised’ と言って渡すと感激されました。後日、律儀にもお礼のお菓子を頂きました。

また、日本人としての良さをきちんとアピールすることも大切です。例えば、「日本人は時々、意見を言うまでに時間がかかる」という批判を受けますが、それは日本人に有言実行（約束）の精神があるからです。言ったからには実行しないといけないので、考えてから話すことが多いのだと思います。

(留学の成果)

・現地での学習について

現地では科目数が少なく、各科目に時間をかけて深く学ぶことができました。第 1 セメスターは、チェコ・ポーランド・ハンガリー・スロバキアの 20 世紀の歴史を学習しました。単純に物事を暗記するのではなく、なぜその出来事が起こったかということや時代背景を学ぶことができ興味深かったです。（例：1938 年にウィーン裁定が実行された時、スロバキア南部にはハンガリー人が多かった、すなわち、スロバキア南部の国境が曖昧だった。このことが、スロバキア人・ハンガリー人間の、領土問題や民族対立を複雑にした。）留学生としてチェコに迎えてもらうからには、できるだけ現地の言葉で話すのが礼儀だと考え、基礎的なチェコ語の授業も履修しました。挨拶やお礼を現地語でするだけで、相手の反応は全く異なる、フレンドリーなものとなりました。第 2 セメスターでは、西欧諸国の政治体制と、電気（エネルギー）の発電・供給方法について学修しました。西欧諸国の政治体制について学ぶことにしたきっかけは、民主主義の社会を生きていく者として、国のトップに政治を任せきりにするのではなく、自分の国の未来について、自分の頭で考える力を養いたかったからです。日本の立憲君主制は、ドイツ、イギリスをはじめとする西欧諸国からアイデアを取り入れて成立しました。よって、西欧諸国の政治体制について考察することで、日本の立憲君主制、ひいては民主主義について、深く考えるきっかけとなりました。電気（エネルギー）の発電・供給方法について学んだ理由は、私が将来、環境問題に携わりたいと考えているからです。私は現在、大学のゼミで環境社会学について学修しています。人々の、水をはじめとする自然とのかかわり、繋がり、また、人々の人

間関係やコミュニティ等を活用することで、環境を保全する方法について学んでいます。このようなアプローチは、エコロジー論とは大きく異なるものですが、環境問題に携わる以上、エネルギーについての基礎知識も備えておいた方がよいと考え、理系科目にチャレンジしました。実際にタービンの製造工場を見学させてもらうこともでき、非常に興味深い授業でした。

・課外活動について

第1セメスターのルームメイトがクリスチャンだったことをきっかけに、月3回ほどミサに行かせてもらい、現地のクリスチャンコミュニティの人々と交流しました。ミサに行く度に、教会前方でクワイヤーの一員として英語で歌わせてもらいました。コミュニティの仲間とは、ミサの時以外でも集まり、キリスト教について教えてもらったり、日本の宗教観を紹介したりしました。クリスチャンの文化は、日本の宗教観と異なる点が多く（一神教・多神教など）聖書を読むだけでは本質を理解できないので、実際に現地に足を運び、人々の営みを知ることができたのは大きな喜びでした。宗教が違って、隣人を大切に思う気持ちや平和への思いは変わらないということを感じました。また、信仰の有無に関わらず、人は皆、何かしらの媒体（人と人が出会い、良い関係を築ききっかけとなるもの）を必要としていることに気がつきました。今回の経験を必ず、今後の大学での学びに繋げ、活かしていきたいです。

（これから留学する人へのアドバイス）

冒頭にも触れたように、日本人としての良さ、また、大阪人としての良さを大切にしてください。日本や大阪の良さについて、あるいは課題について、一般論を繰り返すのではなく、自分の言葉で話せるようになってください。そのために必要な情報収集を楽しんでください。そうすることで、自分の故郷について、多角的に捉える力が養えます。「日本は狭い、世界は広い」という意見もありますが、留学を経て私は、「日本は広い、世界は広い」と感じます。まだまだ、自分の知らない日本が沢山ある。これから、多様性あふれる日本・大阪のことをもっと知りたい。そして将来は、世界中から友達やその家族を大阪に迎えて、もてなしてあげたいと思います。